

科目名	がん看護学特論Ⅲ Topics in Oncology Nursing Ⅲ	
授業形態	講義（レクチャーと討論）	
標準履修年次	1年次	
実施学期・曜時限等	秋B学期 金曜3・4時限、秋C学期 金曜5・6時限	
実施場所	共同利用棟B 204	
単位数	2単位	
担当教員名	水野道代 Mizuno Michiyo 山下美智代 Yamashita Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko 小澤典子 Ozawa Noriko 非常勤講師：梅田 恵、長谷川久巳	
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)		
オフィスアワー等	随時（メールで予定を確認の上訪問すること）	
授業の到達目標 (学習成果)	1 緩和ケアを必要とする患者・家族に関連する事例を作成し、その概要を定められた時間内に他の学生に説明できる。	
他の授業科目との関連		
履修条件	がん看護学特論Ⅲを学びたいと考える者	
授業概要	がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を緩和するために、薬物療法や代替・相補療法などを用いて創意工夫をこらした援助および心理、社会、霊的な援助を、専門看護師の役割と機能を踏まえたうえで行う。	
キーワード	コンサルテーション Consultation、臨床判断 Clinical judgment、コーディネーション Coordination	
授業計画	1(9月以降に提示)コンサルテーション① 2(9月以降に提示)コンサルテーション② 3(9月以降に提示)コンサルテーション③ 4(9月以降に提示)コンサルテーション④	がん性疼痛、抑うつやせん妄・希死念慮などのある患者に関する事例を作成する。CNSのコンサルテーション機能を生かした援助計画を立案し、ロールプレイによって計画に対する実践演習を行う。(梅田・牟田)
	5(9月以降に提示)臨床判断① 6(9月以降に提示)臨床判断② 7(9月以降に提示)臨床判断③ 8(9月以降に提示)臨床判断④	Oncology Emergency、終末期セデーション等に関する事例を作成し、適確な臨床判断を実施するためのプロセスモデルを組み立てる。それらを事例に適用し、その結果を発表する。(長谷川・山下)
	9(9月以降に提示)コーディネーション① 10(9月以降に提示)コーディネーション② 11(9月以降に提示)コーディネーション③ 12(9月以降に提示)コーディネーション④	継続療養支援が必要ながん患者の事例を作成する。退院計画、外来療法、在宅ケア等におけるCNSのコーディネーション機能を生かした援助計画を立案のうえ事例に適用し、その結果を発表する。(梅田・牟田)
	13(9月以降に提示)スタッフ教育と看護研究① 14(9月以降に提示)スタッフ教育と看護研究② 15(9月以降に提示)スタッフ教育と看護研究③ 16(9月以降に提示)スタッフ教育と看護研究④	ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムなどを参考にしながら、症状緩和や倫理的諸問題などに関する看護スタッフへの教育計画を立案し、看護スタッフに対し模擬指導を行う。(牟田)
	17(9月以降に提示)家族支援① 18(9月以降に提示)家族支援② 19(9月以降に提示)家族支援③ 20(9月以降に提示)家族支援④	がん患者の家族や悲嘆ケアを必要とする家族の事例を作成する。CNSの家族支援の役割を果たすための援助計画を立案し、ロールプレイによる実践演習を行う。(小澤・水野)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(%) 教科書等を用いて緩和ケアに関する専門的知識を身に付けた上で、最新の研究報告やインター	
成績評価方法	行動目標1～4を指導に従って大旨できればC以上とする。積極的に1～4を行っているとは判断されればBとする。さらに、行動目標3、4の内容が看護援助として創意工夫がなされたものであり、心理的、社会的、霊的な側面に対する具体的な配慮が認められればA以上とする。	
教材・参考文献・配布資料等	(教科書)特に指定しない。 (参考書)適宜提示する。	
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	わからないことは、その場で質問し解決すること。徹底的に科学的、論理的、厳密な議論を行うこと。	